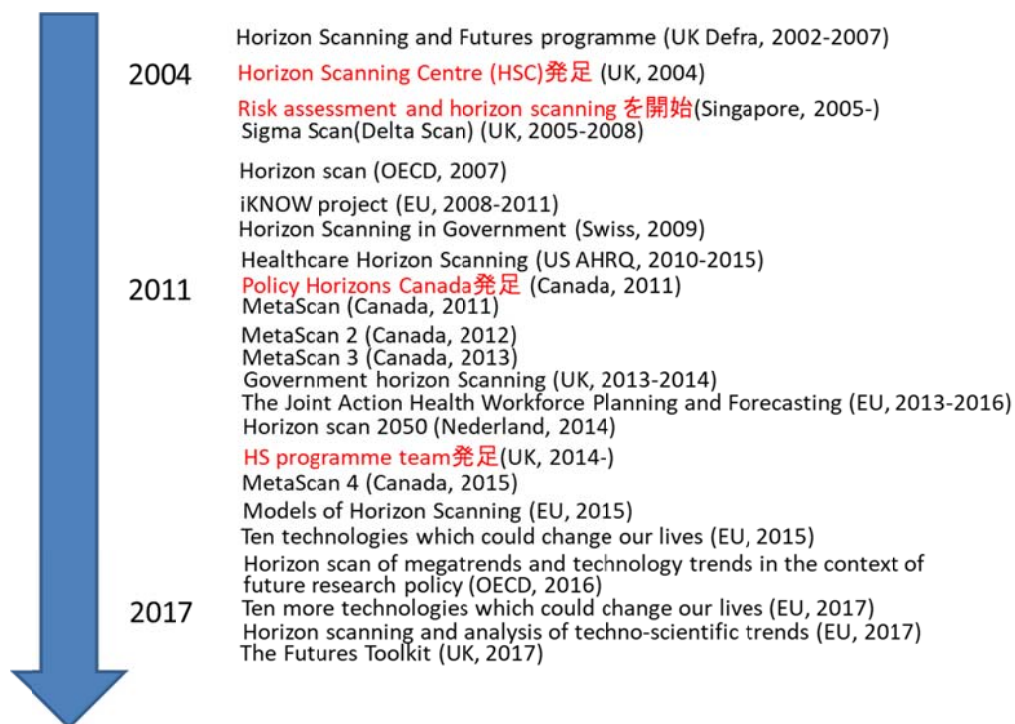


概要

変化の兆候をいち早く見出して様々な社会的インパクトの可能性を模索するホライズン・スキャンニングが注目されるようになり、科学技術・学術政策研究所（NISTEP）は、定常的・継続的なホライズン・スキャンニング KIDSASHI (Knowledge Integration through Detecting Signals by Assessing/ Scanning the Horizon for Innovation)を開始し、取組の一部としてクローリングによる情報収集や分析支援ツールを備えたシステムも構築した。

ホライズン・スキャンニングは、各国・機関ごとに多少ニュアンスが異なるが、共通して「早期の兆しを捉える」ことと定義され、政策手段や予測活動の手法の一つと見なされている。政府内にホライズン・スキャンニングの実施部署を初めて設置したのは、英国政府である。現在、英国以外にオランダやカナダなどの政府機関、OECD 及び EU といった国際機関において、ホライズン・スキャンニングが実施されている。各国等のこれまでの主な活動を概要図表 1 に示す。



概要図表 1 ホライズン・スキャンニングに関わる主な活動

NISTEP におけるホライズン・スキャンニングである「KIDSASHI」は、科学技術予測という枠組の中で、体系的かつ継続的なモニタリングを通じて、将来社会に大きなイ

ンパクトをもたらす可能性のある科学技術に関わる新たな動きを見出し、潜在的な機会やリスクを把握する活動である。

本活動の手始めとして、個別情報の収集と分析に取り組んだ。情報収集には、人による情報収集と自動収集（クローリング）を併用した。

収集した情報は、クローリング記事またはシグナル記事としてとりまとめられる。クローリング記事は、ニュースリリースのキーワードの頻度変化の様相をワードクラウドで表したものである。一方シグナル記事は、論文などの公開情報や関係者への取材などを通じて得られたトピックを記事化したものである。2016年9月～2018年9月の間に39件の記事を掲載した。

クローリングについては、約300の研究機関のサイトに1日1回アクセスし、ニュースリリース・プレスリリースを収集する。また、収集機能と併せて、人による分析を支援するため、情報分析機能（記事分類、類似記事抽出）、可視化機能、検索機能もシステムに組み込んだ。

KIDSASHIの現状における取組は、個別情報の収集・提供までを実現している。今後は、継続的活動を通じて情報を蓄積し、時系列分析や情報間の関係性の分析など、情報の最大限の活用を図る必要がある。併せて、情報収集手段においても、関係機関等との連携や自動収集の仕組みの拡充などの検討が求められる。